芸術科（美術）学習指導案

1. 日時 令和〇年〇月〇日（〇）第〇時限
2. 場所 美術教室
3. 科目名・学年 造形演習（選択科目）第3学年
4. 題材名 「おっ！好みペン」
(A 表現（1）絵画・彫刻（2）デザイン（3）映像メディア表現、B 鑑賞、〔共通事項〕)
5. 題材の目標
  - (1) 【知識及び技能】
    - ・材料の効果・目的について理解し、手順や技法などを創意工夫し制作する。
    - ・意図に応じて材料や用具の特性を生かし、粘土で立体的に表す。
  - (2) 【思考力、判断力、表現力等】
    - ・主題の表現を追求しながら、形や色彩、材料の効果や表現の目的や機能について考え、創造的な表現の構想を練る。
    - ・自己の作品の意図を他者に伝えるとともに、他者の作品から発想や構想の独自性、表現の意図について考え、見方や感じ方を深める。
  - (3) 【学びに向かう力、人間性等】
    - ・色や形・素材の持つ効果や働きについて関心を持ち、自己の主題を追求し創造的に表す表現活動に主体的に取り組む。
    - ・他者の発想や表現の独自性、意図を理解し、造形的なよさや美しさを感じとり、見方や感じ方を深める鑑賞活動に主体的に取り組む。
6. 教材観

本題材は、身近な文具である「ペン」を紙粘土とその他様々な素材で創意工夫して制作するものである。「ペン」は、本来「用と美」を兼ね備えたものであり、今回も「実用性」だけではなく、展示を意識した「オブジェ」としても成立する作品を目標とすることで、写実的な表現や抽象表現など、オリジナル性の高い多様な表現が期待できる。芯材を自由に工夫することが可能なため、試行錯誤しながら「世界に一つだけのオリジナル作品」をめざす。

7. 指導観

題材を通して、生徒は全行程の手順の計画をたて、それぞれの進め方で「自分の好きなモノ」や「わたし好み」から発想やアイデアを膨らませながら、主体的で計画的に創作活動を行う。最初の段階で、ワークシートによるグループワークを行うことで、他者からの意見に触れるようにする。このことにより、新たな着想や思いもよらない新しい視点を得ることができ、アイデアを本格的に生成する際に自己表現をより深める効果が期待できる。途中の段階で進行の全体指導を行い、進度の調整・確認をさせるとともに、制作途中の「途中鑑賞タイム」の時間を取り入れることで、自己理解と他者理解を

相互に実感しながら、他者の見方・感じ方・表現方法を自身の作品に取り入れ、自己探求をより深められるようにする。完成後は、作品を相互鑑賞し、作品の撮影を行うことにより、作品の多様な見方、感じ方をより深め、自分だけでは気がつかない自分のよさに気がつき、他者の個性について深く探求できるようにする。

造形・着色作業では、事前に様々な技法動画を用意し、各自が取り組んでみたい表現方法を選べるようにし、自身が目標とする完成イメージに近づくよう個別最適な学びの充実を図る。美術の面白さである「作る楽しさ」「表現する楽しさ」「発表する楽しさ」「鑑賞する楽しさ」を多面的にバランスよく実感させたい。

8. 題材の評価規準

知識・技能【a】	思考・判断・表現【b】	主体的に学習に取り組む態度【c】
【知】 材料の効果・目的について理解し、手順や技法などを創意工夫しながら制作している。 【技】 意図に応じて材料や用具の特性を生かし、粘土等で立体的に表している。	【発】 主題の表現を追求しながら、形や色彩、材料の効果や表現の目的や機能について考え、創造的な表現の構想を練っている。 【鑑】 自己の作品についての意図を他者に伝えているとともに、他者の作品から発想や構想の独自性、表現の意図について考え、見方や感じ方を深めている。	【態表】 色や形・素材の持つ効果や働きについて関心を持ち、自己の主題を追求し創造的に表す表現活動に主体的に取り組もうとしている。 【態鑑】 他者の発想や表現の独自性、意図を理解し、造形的なよさや美しさを感じとり、見方や感じ方を深める鑑賞活動に主体的に取り組もうとしている。

- ：総括的評価（記録に残す評価）
●：形成的評価（指導に生かす評価）

9. 題材の指導と評価の計画（全4次：全8時間）

時	学習内容・学習活動	評価の観点			評価規準【観点】 (評価方法等)
		a	b	c	
第1時 本時	「課題を理解する」 - 題材について、制作全体の流れ、目標・評価の規準を理解し、見通しを持つ。 「ワークシート①」 - ペア・グループワークでモチーフ案を検討する。			●	【c 態表】 オリエンテーションの内容をふまえ、ペア・グループによる創造活動に主体的に取り組み、制作イメージを膨らませようとしている。 (ワークシート①、授業の様子)
第2時	- アイデア生成のポイントを理解する。 「作業計画シートの作成」 「ワークシート②」 - 主題を生成する。		●	○	【c 態表】 自身の学びを振り返りながら創造活動に主体的に取り組んでいる。 (ワークシート②・振り返りシート・授業の様子) 【b 発】 他者の意見も参考にしつつ、形や色彩、材料に効果も考え、主題を生成している。
第3時	- 造形作業について説明を受け、構想に基づき用意された動画を選択し、視聴する。 「アイデアシート」 - PCを活用しながらアイデアを生成する。 表現方法や構想を練りながら、同時に作業計画シートの作成も行う。		○	○	【b 発】 課題の趣旨をふまえ、感性や創造力を働かせて主題を生成し構想を練っている。 (アイデアシート) 【c 態表】 自身の学びを振り返りながら創造活動に主体的に取り組んでいる。 (振り返りシート)
第4時 と 第7時	「造形作業」 - 芯材を使い、粘土で造形する。 「途中鑑賞タイム」 10分間、他者の制作工程や進度を含め、作品を鑑賞し、自己表現の確認を客観的に行いながら、意見交換や情報交換を行う。 「彩色作業」 - 粘土の立体作品に彩色作業をする。 ※着色表現は、アクリル絵の具以外で効果的な表現素材があれば使用可能とする。 「仕上げ作業（ニス塗り）」 「クロームブックで作品を撮影する」 - 完成作品をクロームブックで撮影する。 ※進度が各自で違うので、タイミングのよい時に効果的に説明や動画鑑賞を行う。	○	○	○	「造形作業」 【a 技】 造形の手順や技法などを創意工夫しながら制作している。(作品) 【a 技】 粘土や材料等の特性を生かしながら立体的に造形作業をしている。(作品) 【b 発】 主題を表現追求するために、形や色彩、材料の効果を考え、創造的な構想を練っている。(作品) 「途中鑑賞タイム」 【c 態鑑】 自己の作品について意図を伝え、他者の作品については発想や構想の独自性や表現の意図を知ることによって相互理解を深めながら見方や感じ方を深めている。(鑑賞ワークシート・授業の様子) 「彩色作業」 【b 発】 着色作業の手順や技法などを創意工夫しながら制作している。(作品) 【a 技】 アクリル絵具・その他着色材料等の特性を生かしている。(立体作品) 【c 態表】 自身の学びを振り返りながら創造活動に主体的に取り組んでいる。 (振り返りシート)
第8時	「相互鑑賞」 - タイトル・作者のコメント文を記入し、キャプションを作成する。 - 全体で対話しながら相互の鑑賞活動を行い、コメントシートを記入する。		○	○	「相互鑑賞」 【b 鑑】 自己の作品について意図を伝え、他者の作品については発想や構想の独自性や表現の意図を知ることによって相互理解を深めながら見方や感じ方を深めている。(鑑賞コメントシート・授業の様子) 【c 態鑑】 自分の作品について、色や形・材料の持つ効果や、働きについて関心を持ち、見方や感じ方を深めようとしている。(完成レポート・授業の様子) 【c 態表】 創造活動に積極的に参加し、毎回の振り返りで学びを深めようとしている。(振り返りシート)

10. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・題材について、制作全体の流れや目標を理解し、学習の見通しを持つ。
- ・ペア・グループで主題や表現方法を追求する創造活動に主体的に取り組む。

(2) 本時の評価規準

【c 態表】 オリエンテーションの内容をふまえ、ペア・グループによる創造活動に主体的に取り組む、制作イメージを膨らませようとしている。(ワークシート①、授業の様子)

(3) 本時の準備物

生徒：Chromebook、筆記具

教員：PC、Chromebook、プロジェクター、プリント（ワークシート①②）、画材、作品見本等

(4) 本時の学習過程（第1次）

時間	学習内容	教員の働きかけや 生徒に投げかける問い	評価規準 (評価方法等)
導入 10分	・題材について、制作全体の流れや目標を理解し、学習の見通しを持つ。 ・参考作品・素材を視覚的に見ることによって実感的に理解し、全体の進行のイメージを深める。	・日程も含めて、見通しをもって計画的に授業に取り組めるよう指導する。 ・アイデア生成のポイントを動画で説明する。	
展開 35分	・本時の流れを理解する。 制作1ワークシート① ・ペア・グループで、モチーフ案を出し合い、意見交換しながら、自身の構想を深め、それらをワークシートにまとめていく。 ・第2時でアイデアを生成することに向け、よりイメージを深めておく。	・ワークシート①では、イメージマップを用い、「私の好き」から連想することを書きだすことで、自己分析を深めながら、発想を広げられるようにする。 ・机間指導にて、対話に困っているグループのサポートを行う。 ・実用性」「デザイン性」を強く伝えて、より実用性がある、面白い作品をめざすよう促す。	【c 態表】 オリエンテーションの内容をふまえ、ペア・グループによる創造活動に主体的に取り組む、制作イメージを膨らませようとしている。 (ワークシート①、授業の様子)
まとめ 5分	・本時の学習を振り返る。 ・次回の内容について見通しを持つ。		